

令和6年度第2壮行式校長激励のことば

毎年思うのですが、この時期の山の緑というのは、本当に美しい。若々しい新緑、フレッシュグリーンに輝いている。この輝きは今だけのもので、しばらくすると緑色が濃くなっていき、若々しさは消えていく。

一年で最も美しく山が輝くまさにこの時期、皆さんの県高校総体は開催されます。

高校総体前から総体本番までの時期が、私はとても好きです。というのも、高校生が一心不乱に勝利を目指して練習に打ち込む姿、プレーする姿、躍動する姿を至る所で見ることができるからです。試合では、勝利の喜びに心からの雄叫（おたけ）びを上げたり、負けた悔しさに震え涙する姿に接することができます。選手はもちろんですが、我を忘れて選手をサポートし、応援する生徒たちの姿もまた感動を呼びます。

さて、その感動はどこから生まれるのか。なぜ感動するのか。

それは、そこにいい加減なものがないからだと思います。若者の飾らない真っ直ぐな気持ちがそこにはあります。

山が美しい時期だと申し上げましたが、実は高校生が美しく輝く時期だからこそそのイメージと重ねて、新緑輝く山々を余計に美しく感じているのかもしれない。

選手の皆さん、ここまでよく頑張ってきました。明日から始まる闘いの中で、今まで積み重ねてきたものを全放出してきてください。

試合という特別な場で、もしかしたら今まで味わったことの無い厳しい経験をすることもかもしれません。がくがくと足が震える緊張だったり、ひっくり返すのが難しいピンチだったり、予期せぬアクシデントだったり。

しかし、そんな容赦のない厳しい状況に直面して、それを打開しようと必死にもがく中でしか得られないものがある、そう思っています。必死になることで、自分の、自分たちの限界ラインを突破する経験が出来る。

だから、もしそんな緊張や、ピンチや、アクシデントに見舞われても、慌てないでください。ブレーキを踏むのではなく、むしろアクセルを踏んでください。若さを爆発させて、限界突破を経験してきてください。

大湊高校の選手諸君、健闘を祈ります。

令和6年5月30日

校長 伊藤文一